ティーチング・ステートメント

所属 薬学部薬学科
名前 坂東 勉
作成日 2024 年 2 月 26 日

【責任】　薬学部薬学科に所属し、専門科目である薬剤疫学、地域医療薬学、医療倫理学、アドバンスト演習、臨床薬学総論、大学院研究計画法概論、在宅医療薬学特論、臨床薬学実習Ⅱ、Ⅳを中心とした教育活動を行っている。主たる教育活動は上記科目の担当、ゼミ生や大学院生の研究指導、薬学部学生の生活支援や教務的管理・支援を行っている。

【理念】　医師と対等に治療についてのディスカッションを行うことができ、治療等に関する研究論文を薬剤師主導で発信できる薬剤師を育成したい。
薬学教育は 6 年制へと切り替わり、覚えなければならない内容が格段に多くなっていることから理解するよりもまず、記憶（暗記）に頼る学生が多いのが現実である。記憶することは必要であるが薬剤師国家試験問題の難易度が年々上昇していることから記憶のみでは対応できないこと、また、薬剤師の職場である病院、調剤薬局においても 6 年間の教育内容が断片化してしまい薬剤師業務が形骸化している現状がある。
「わかる」ということは、次のステップのさらに深い理解につながるため、とても楽しいことであるという体験を通し、自分で考えて理解し、応用できる科学者としての側面を持つ薬剤師の育成を推進する存在になりたい。

【方針・方法】　上記の理念を実現するために個人の能力を最大限に引き出すとともに、課題に集中させるために「リラックスさせ、笑顔がある中にも一定の緊張感を持たせる」、理解できないことから記憶に偏ることのないよう「学生のつまずいている部分を把握し、暗記ではなく、理論から物事を考えて、深い理解をさせる」及び病院や調剤薬局で科学を使うことが患者さんの治療効果向上等につながり、やりがいやその有用性を感じ取ることができるよう「臨床現場で科学を使う楽しさ・重要性を感じてもらう」という方針で活動している。

「リラックスさせ、笑顔がある中にも一定の緊張感を持たせる」
・学生をリラックスさせるため、なるべく笑顔を保ちながら授業を行っている。
・学生に任意に当てて発表してもらうことにより、一定の緊張感を持たせている。

「学生のつまずいている部分を把握し、暗記ではなく、理論から物事を考えて、深い理解をさせる」
・考察が必要な授業の重要ポイントで時間をとって数分間、席の近い学生同士でディスカッションをさせている。
・ディスカッション中に講義室を回って学生同士のディスカッションに参加し、学生のわからない部分、つまずいている部分を把握している。

「臨床現場で科学を使う楽しさを感じてもらう」
・教科書に出ている事例や病院で自身が経験した事例を示し、科学を使うことが患者さんの健康増進に役立つことにやりがいを感じさせ、その楽しさや有用性を理解させる。

【成果・評価】
・学生の授業評価アンケートで約 7 割の学生が満足と回答している。
・過年度に行われていた学生の授業評価アンケート結果の良い教員に与えられる「Good Lecturer 賞」を複数回、連続で受賞している。

【目標】短期目標（3 年以内）
・「学生をリラックスさせるため、なるべく笑顔を保ちながら授業を行っている。」ことが学生にどう評価されているのかを分析する。
・「学生に任意に当てて発表してもらうことにより、一定の緊張感を持たせる。」ことが学生にどう評価されているのかを分析する。
・「考察が必要な授業の重要ポイントで時間をとって数分間、席の近い学生同士でディスカッションをさせている。」ことが学生にどう評価されているのかを分析する。
・「ディスカッション中に講義室を回って学生同士のディスカッションに参加し、学生のわからない部分、つまずいている部分を把握している。」ことが学生にどう評価されているのか結果を分析する。
・医療倫理学においては、医療倫理に関する「自分の考え」を、全ての学生に述べてもらうことにより、正しい倫理観を醸成する。

長期目標
・医師と対等に治療に関するディスカッションを行うことができ、医師から一目置かれる薬剤師を育成する。
・現場での治療に関する不明点や明らかにすべき内容に自ら気づき、その点を明らかにする研究論文を発信できる薬剤師を育成する。